

その2：将来の展望について

1. 新事業での市場獲得

1-1 ニーズ、ターゲットについて

剪定枝・伐採木については8割が、解体で発生した木くずは6割が発生した市区町村区域内で処理されている。創業当初は主に鉄・非鉄の受け入れに注力してきたが、近隣の農家や搬入解体業社からの要望で廃タイヤやプラスチックの受け入れも取り組むようになった。新事業において木くずの受け入れを計画した理由は、当社に鉄を搬入している既存顧客から、解体で生じる木くずを受け入れについての要望があったからである。また周囲には桃農家やマスカット農家が多く、剪定枝や伐採木の処理需要も多い。

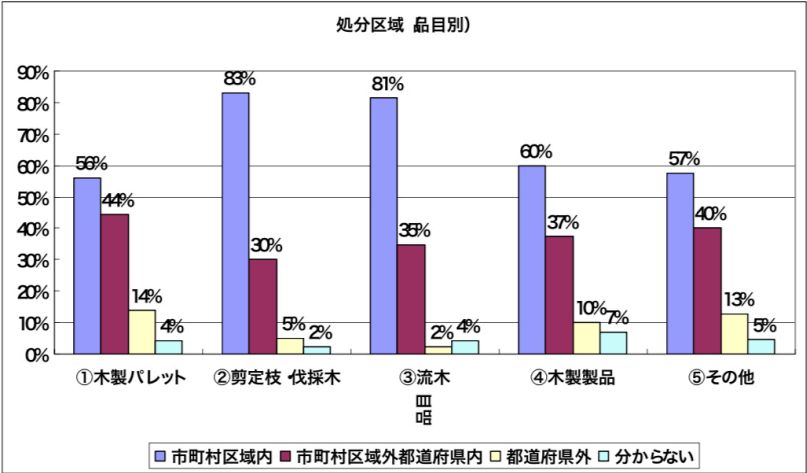


図. 3 処理区域 『木くずの現状』環境省

◆ 政令指定都市別の空家数、空家率等

	住宅総数	空家総数	空家率	順位
大阪市	1,634,100	280,700	17.2%	1
岡山市	351,600	55,300	15.7%	2
北九州市	496,600	71,200	14.3%	3
広島市	591,100	83,400	14.1%	4
札幌市	1,009,600	142,200	14.1%	5
熊本市	357,500	50,300	14.1%	6
京都市	814,400	114,300	14.0%	7
浜松市	353,600	49,200	13.9%	8
静岡市	319,200	43,500	13.6%	9
堺市	406,300	53,800	13.2%	10
名古屋市	1,274,500	167,700	13.2%	11
神戸市	828,300	108,100	13.1%	12
福岡市	854,000	104,500	12.2%	13
新潟市	366,400	44,000	12.0%	14
千葉市	457,200	52,700	11.5%	15
相模原市	337,600	35,900	10.6%	16
川崎市	753,700	78,500	10.4%	17
横浜市	1,764,900	178,100	10.1%	18
仙台市	562,000	56,000	10.0%	19
さいたま市	569,600	56,300	9.9%	20
20 政令市	705,110	91,285	12.9%	
全 国	60,628,600	8,195,600	13.5%	

出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局）

当社が立地する岡山市北区は全国的にも高い空き家率となっており、空き家の件数は年々増加している。それに伴い解体件数や解体のニーズが増加している。この傾向は今後も続くと考えられる。

ターゲット	既存顧客・新規顧客	廃棄物の種類
これまで当社に解体ごみ（鉄）を搬入している解体業社	既存顧客	解体によって生じる木くず
木造家屋の解体ごみを他社に搬入している解体業社	新規顧客	解体によって生じる木くず
壊れた農機具を当社に搬入している周辺農家	既存顧客	剪定枝・伐採木

1-2 市場規模について（岡山市における建設業から排出される木くずの処理費用）

当社の商圈を岡山市とした場合の新事業で取り組む木くずの処理についての市場規模を算出する。

岡山県における木くずの排出量は年間166千tであり、そのうち建設業から排出されたものが**119千t**である。また岡山県における建設業売上高は**1,061,408百万円**であり、岡山市においては**424,515百万円**である。（『経済センサス活動調査 平成28年』総務省）**廃棄物排出量が売上高に比例すると考えると、岡山市における建設業の木くずの排出量は約48千tとなる。**

	建設業売上高（百万円）	木くず排出量（千t）	割合（排出量/売上高）
岡山県	1,061,408	119	0.112t/百万円
岡山市	424,515	（推定）48	

表 2-2-1 業種別・種類別の排出量

		（単位：千t/年）											
業 種	合 計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報・通信業	運輸業	卸・小売業	宿泊・飲食	医療・福祉	サービス業※1	その他の業種※2	
種 別													
合計	5,583	15	809	3,098	1,590	1	9	28	4	23	6	3	
燃え殻	31		0	19	12							0	
汚泥	3,102	15	34	1,600	1,445	0	0	1	1	2	3	0	
廃油	72	0	0	66	0		0	2	2	0	0	1	
廃酸	53		0	53	0			0		0	0	0	
廃アルカリ	70		1	69	0		0	0		0	0	0	
廃プラスチック類	219	0	20	175	0	0	2	17	0	3	1	1	
紙くず	12		4	9									
木くず	166		119	42	0		5	0	0	0	0	0	
繊維くず	2		1	1									
動物性残さ	57			57									
動物系固形不要物	0										0		
ゴムくず	0		0	0				0					
金属くず	46	0	9	33	0	0	1	2	0	0	0	0	
ガラス陶磁器くず	116		25	90		0	0	0		0	0	0	
鉱さい	300		0	299	0						0		
がれき類	767		590	174	1		0	1		0	0	0	
ばいじん	534		0	402	132								
水銀廃棄物	0		0	0	0		0	0		0	0	0	
その他産業廃棄物	36		5	8	0	0	1	4	0	17	0	0	

注）※1 サービス業は、「学術・専門」、「生活・娯楽」、「サービス業」の合計値である。
※2 その他の業種は、「林業」、「漁業」、「物品賃貸業」、「公務」の合計値である。
『令和2年度岡山県産業廃棄物実態調査報告書』岡山県

⑤ 木くずの処理費用
各品目ごとに若干のばらつきはあるが、10kgあたりの処理費用が100円以上300円未満とするものが最も多い。おおむね7割から8割程度が300円未満で処理されている。

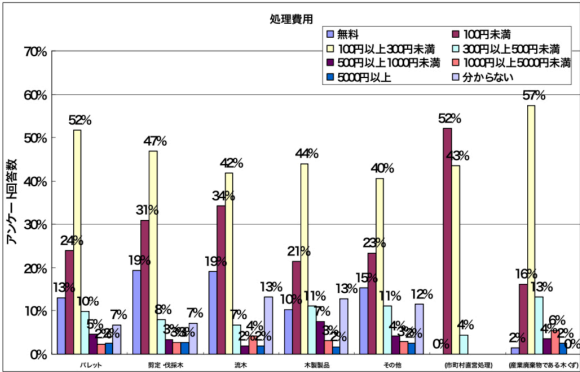


図. 4 処理費用
『木くずの現状』環境省

木くずの処理費用はばらつきがあるものの、環境省の調査によると、7～8割が300円未満/10kgである。**10kgあたり300円**として市場規模を計算すると、**1,440百万円**の市場規模があると考えられる。

木くず発生量（岡山市の建設業）	10kgあたりの処理費用	市場規模（木くず処理）
48千トン	300円	1,440百万円